

のはじまりです、若いころすもうをしていた村の年よりが、行司をつとめます。個人戦のあとは、村一番の人気すもう、五人ぬき戦がはじまります。五人ぬいたカ士が今年の横綱として、たくさんの賞がもらえるのです。われこそはと、カ士たちが土俵のまわりにじん取ります。最初のひと組で勝ち名のりを受けると、次は早く土俵に登ったカ士と競うのです、一人ぬき、二人、三人まではぬくのですが、五人まで勝てるカ士はまだおりません。

そのときです。今までじつと土俵上を見つめていた亀五郎が、すーっと立ちあがり、土俵に上がりました。観衆の中から、「鬼亀が**ん**ばれ、鬼亀**し**つかり」という声援があがりました。地元の人たちは、亀五郎の実力を知っていたのです。何事にも負けん気で、思ったことをやりとげようとがんばる、力持ちの亀五郎を村人たちは「鬼亀」というあだ名で呼んでいたのです。

行司の合図で勝負がはじまり、一人をあつかりと負け、次々と相手を土俵の外に出し、予想通り、五人ぬきを果たし、今年も横綱は、亀五郎だったのです。